

令和6年

# 区民委員会会議録

とき 令和6年8月26日

品川区議会

令和6年 品川区議会区民委員会

日 時 令和6年8月26日（月） 午後1時00分～午後1時57分  
場 所 品川区議会 議会棟5階 第3委員会室

出席委員 委員長 高橋 伸 明 副委員長 吉田 ゆ み こ  
委員 せ お 麻 里 委員 ゆ き た 政 春  
委員 安藤 た い 作 委員 藤 原 正 則  
委員 石田 し ん ご 委員 おぎのあやか

出席説明員 川島地域振興部長 宮澤地域活動課長  
河合生活安全担当課長 今井八潮まちづくり担当課長  
築山戸籍住民課長 小林地域産業振興課長  
栗原創業・スタートアップ支援担当課長 辻文化観光スポーツ振興部長  
大森文化観光戦略課長 三井スポーツ推進課長

○午後1時00分開会

○高橋（伸）委員長

ただいまより区民委員会を開会いたします。

本日は、お手元の審査・調査予定表のとおり、報告事項、行政視察についておよびその他と進めてまいります。

本日も効率的な委員会運営にご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、1名の傍聴申請がございますので、ご案内いたします。

---

1 報告事項

(1) 品川区民芸術祭2024の開催について

○高橋（伸）委員長

それでは、予定表1、報告事項を聴取いたします。

初めに、(1) 品川区民芸術祭2024の開催についてを議題に供します。

本件につきまして、理事者よりご説明願います。

○大森文化観光戦略課長

それでは、私から、品川区民芸術祭2024の開催について、説明をさせていただきます。

お手元の資料をご覧ください。両面刷りとなっております。

まず、目的でございます。

記載のとおり、区民の皆様の日頃の文化活動の発表の場として、また、質の高い「文化芸術」に触れ親しむ機会として開催するものでございます。

2の期間についてですが、9月から11月にかけての3か月間となります。

3の主催については、区と品川文化振興事業団となります。

4の事業概要でございます。

(1) コンサートについては、2件となります。

特にドリームステージにつきましては、7月1日の補正予算の審議の際にご説明させていただきました振動と光で音を体感できる「On t e n n a」という機器の貸出しブースをホワイエ内に設けまして、デフリンピックの啓発を文化面から推進していくといった要素が含まれてございます。

(2) の美術展でございます。

上の2つが、いわゆるプロの方の展示で、下の2つが、区民の方の公募による作品展という形になります。

(3) の団体・サークル活動の発表ということで、ジャンルごとにステージを設けてございます。それぞれのステージごとに出演者を主体に運営委員会を組んでいただきまして、準備から当日の会場設営、会場運営、それから反省会まで、出演される方々で力を合わせて1つの舞台をつくり上げていき、区はサポートに回るという形で運営をしているものでございます。

資料の裏面をご覧ください。

こちらは、芸術祭の期間中に実施される関連事業ということで紹介させていただきます。芸術祭とは別事業となりますが、同期間に開催される文化芸術等の様々なイベントについてという形になります。

①区主催事業でございます。

上の品川歴史館リニューアル特別記念展につきましては、黒船の来航から、お台場がどのようにつく

られたのかを、幕府役人の日記を中心に工事の様子を展示していくという内容でございます。

また、期間中、11月17日日曜日と、12月15日の最終日には、記念講演会が予定されております。

その下、「まちぐるみ文化イベント2024 あつまれ！えばら」、こちらは、今回、3回目の開催となります。今年は文化の日の開催となります。昨年までは、荏原地区全体をエリアとしまして、複数イベントを同日に開催するといった趣旨でやってございましたが、今年度は日程を分散させまして、10月20日日曜日の「エコルフェス」、10月27日日曜日の「にしこやまつり」と連携しまして、毎週イベントを楽しんでいただけるという方式で実施する予定となっております。

②につきましては、各団体と区の共催事業となります。

上の「いけばな展」は品川区華道茶道文化協会、中段の「品川区民秋のコンサート」につきましては品川区民管弦楽団、「品川区合唱祭」は品川区合唱連盟ということで、各団体と共催で開催いたします。

③は、品川文化振興事業団主催事業となります。

昨年の大ホールのリニューアルオープンが10月1日ございまして、ちょうど1年となります。

「ワンコイン名画座」につきましては、黒澤明監督の原作をイギリスを舞台にリバイバルした「生きる L I V I N G」をきゅりあん35周年記念として上映いたします。

中段は、東京フィルハーモニー交響楽団、指揮は、品川区出身の原田慶太楼氏をお招きしてのコンサートとなります。

その下、古典芸能である狂言を手話による表現の研究を重ねて誕生しました「手話狂言」のご案内となります。

5の予算につきましては、記載のとおり、3,176万円。

6の広報につきましては、8月21日号の広報しながわ、それから、9月1日に発行されます「i n f o C U R I A」、こちらは品川文化振興事業団の広報紙で、「i n f o C U R I A」に関しては芸術祭の特集号として発行するものでございます。そのほか区や品川文化振興事業団のホームページですとか、ケーブルテレビ等でも周知を図ってまいります。

#### ○高橋（伸）委員長

説明が終わりました。

本件に関しまして、ご質疑等がございましたら、ご発言をお願いします。

#### ○安藤委員

主催なのですが、これは品川区と文化振興事業団の共催という意味なのでしょうか。だとしたら、運営上の役割分担はどのような感じになっているのかを教えてくださいたいと思います。

それと、それぞれの出演とか出品にかかって、参加料はとったりしているのでしょうか。あるとしたら、どれぐらいなのか、高過ぎて参加をちゅうちょするというようなことはないのかというところをお聞かせください。

#### ○大森文化観光戦略課長

まず、役割分担につきまして説明させていただきます。

こちらの表面のほうです。ドリームステージ、品川アーティスト展、それから、○美術館の企画展につきましては、文化振興事業団が主軸をとってやってございます。そのほかにつきましては、品川区が主軸をとってやっているのですけれども、お金のかかるチケットですとか、そういったところの周知に関しては、お互いに協力し合っていてやっているというような形になります。

それから、料金につきましてですが、こちらの表面につきましては、〇美術館の企画展が500円ということで料金が発生しているものでございます。その他は無料というような形になります。

裏面のほうの料金設定もご説明いたします。

品川歴史館リニューアルの特別記念展になりますけれども、こちらは、通常、大人100円の入場料をとっております。その入場料で、こちらはご覧いただける形になります。

それから、②の秋のコンサートになります。こちらは、前売りが500円、当日が700円という形になってございます。

それから、③ワンコイン名画座、こちらも500円という形になります。

それから、フレッシュ名曲コンサートですけれども、こちらは少々お値段が高くなりまして3,500円、高校生以下が1,000円という形になります。

それから最後、手話狂言、こちらは、一般が2,500円、区民の方ですと2,000円、高校生以下が1,000円という形になります。

#### ○安藤委員

出演者とか出品者の方はあまり負担はないということだったので、よかったなと思います。

あともう1つ、こういう芸術祭という形でやるようになってから大分久しいと思うのですが、主催してきて、区として考えている課題ですとか、さらなる改善の方向の考えがあるのか、ないのか。また、かなり長い期間にわたってたくさんの事業が1つの芸術祭ということになっているのですが、この全体の振り返りとか総括は、どういう感じで、どのような場所で行っているのかお聞かせください。

#### ○大森文化観光戦略課長

こちらの芸術祭に関しましては、文化振興事業団と、理事長を含めまして、毎年の企画を確認し合いながら進めているところでございます。なので、終わった後も、来年、何回目になるので少し拡大しましょうかとか、そういったようなお話は出てくるのですけれども、何分予算をとって進めていくというような形なので、拡大の方向性等をよく検討しながら反省会を進めている形になっております。

それから、課題に関しては、一番は誘客というようになるところになるかなというふうに、集客力という形になるかなと思っております。

そのため、地域のお子さんを交えたティーンズコンサート、小・中学生、高校生の金管の吹奏楽ですとか、合唱ですとか、そういったことを要素に入れながら、親御さん、ご家族で来ていただけるような形をとっております。

それから、(3)のサークル・団体、ダンスですとか、軽音楽ですとか、そういったところの各団体、大体15グループが成り立ってやっておりますので、こちらのほうも、かなり集客はできているかなと思いますので、心配してはいるところですが、ある程度、集客はできているものというふうに理解しています。

#### ○安藤委員

分かりました。

#### ○高橋(伸)委員長

ほかにございますか。

#### ○おぎの委員

ご説明ありがとうございます。私のほうからも幾つかお聞かせください。

まず最初に、先ほどの質疑のご答弁で、品川区と文化振興事業団とが役割分担でそれぞれが軸に

なってやっているということで、美術展の品川アーティスト展と〇美術館は、文化振興事業団が主軸のようですが、この品川アーティスト展はプロの方が出品されるということで、どういったお声かけをしているかとか、そういうことはあまり、品川区のほうでは、主軸ではないので……。

**〇大森文化観光戦略課長**

分かります。

**〇おぎの委員**

分かりますか。されていますか。

**〇大森文化観光戦略課長**

関与はしていないのですが、繰り返しになりますが、文化振興事業団は、ドリームステージと、品川アーティスト展と、〇美術館の企画展になります。

品川アーティスト展のアーティストに関しましては、文化振興事業団のほうで、グループとしてつくっている品川でアートに関する活動をしていらっしゃる方々が70名ぐらいいらっしゃいまして、その中から、展示ができるアーティストということで、15名ほどに声をかけて展示会をやっているという形です。その選択に関しては、特に区からこの人をとかということはないです。

**〇おぎの委員**

新しい品川区のアーティスト、芸術活動をされている方の発表の場になるといいなと思いますので、品川区からも、広く周知していただくと、やる気のある方がどんどん発信していける場になるといいなと思います。

2点目ですけれども、少し分からないので教えていただきたいのですが、グリーン電力証書システムの活用ということで、令和5年度の実績を見ますと、品川区民芸術祭とか、過去の資料でふくしまつりと書いてあったのですけれども、今回のこういったものは幾つか対象になっているのでしょうか。

**〇大森文化観光戦略課長**

グリーン電力につきましては、環境課のほうで舵をとっているものになりますので、また環境課のほうにも情報提供しまして、それに見合う事例があれば、こちらのほうについていくという形になります。

**〇おぎの委員**

分かりました。ありがとうございます。

啓発メインということだと思いますので、今回のこの事業がグリーン電力証書システムの活用というものの項目にもし入ってきているのであれば、こういうこともやっていますよと、もう少し啓発に力を入れていただけたらいいのかなと思います。

前回、令和4年度の行政評価シートの事業の実績で、令和2年のコロナ禍から参加人数がだんだん増えてきていると思うのですが、去年はどれぐらいの参加人数だったのでしょうか。

**〇大森文化観光戦略課長**

去年の参加人数ですけれども、見に行っているものも多いので、ホールによってもある程度なのですが、きゅりあんの大ホールに関しましては、およそ6割から8割ぐらい埋まるかなというふうに感じております。スクエア荏原のほうに関しましても、座席が360余りというような形なのですが、それに合った講演内容という形にしておりますので、そちらのほうも、集客に関しましては、極端に少ないというような状況はございませんでした。

それから、〇美術館の企画展ですが、こちらは1か月半ぐらいのスパンでやるのですけれども、そちらのほうで1,000人程度というふう聞いております。

## ○おぎの委員

これだけ長い期間で、区も予算をかけて行いますので、今年も、昨年度よりさらに多くの方に来ていただけるといいなと思います。よろしくお願いします。

## ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

## ○石田（し）委員

目的にあるように、この芸術祭は、地域のにぎわい、さらに言えば、アーティストの方たちの発表の機会の提供、そして、区民の皆様を含めて、なかなかふだん芸術に触れられない人たちにも安価で触れてもらうということが大きな目的になっているのかなと思うのですけれども、これ、開催場所を見ても、基本的に全部屋内の会場で、それなりに少しかしこまったというか、イベントになっているのかなと思うのです。これだと、なかなか目的は達成されず、要は、興味がある人は何かしら調べて、「こういうのやっているんだ、見に行こうかな」とかと思うかもしれない。例えば、広報しながらで新聞折り込みをやる。新聞をとっていない人は見ないわけです。ホームページは、基本的には、興味がないとそこに行かないのだから、なかなか見ないです。ということは、なかなか見ないのです、これをやっていることを。なので、もう少し、やはりプッシュ型の広報をして、どンドン区でこういうことをやっているのだよ、ぜひ見てくださいねということをやると、もう1個は、会場を、これは天候とかいろいろあるのですけれども、やはり一定、屋外でやるということが大事で、要は、それこそが気軽なわけで、ふらっと町を歩いていたときに、何かやっているのだなというのが町じゅうで幾つかあると、町全体で芸術に対して、この期間、そういうことをやっているのだなということを感じるようになるので、ぜひそういった工夫を考えていただきながら進めていただきたいなど。せっかくこうやってイベントをやっても、そこにつながらない人たちが多ければ何の意味もないと思うので、やはり町が、その3か月あまり、芸術であふれているのだよということを知ってもらう意味では、ぜひいろいろな人の目に、耳に触れてもらえる機会をどんどん増やしていただきたい。その先にこういったイベントがつながってくるのだと思うので、ぜひその辺は工夫して、例えば商店街で、もう少しそうやってアピールをしてもらうとか、町会ももちろんそうですけれども、いろいろなところでどンドン、各イベントでも発信してもらって、この期間、こういうことをやっているのだということをもっとアピールしていただきたいと思うのですけれども、その辺の考えを教えてください。

## ○大森文化観光戦略課長

貴重なご意見をありがとうございます。そうですね、こちらの表面に関しましては全て室内というような形になっていて、ご指摘のとおりだと思います。裏面に関しては、まちぐるみ文化イベントの「あつまれ！えばら」と一緒に連携してやっている「エコルフェス」ですとか、「にしこやまつり」といったものは、屋外というところで、通りがかりの方々にも見やすいイベントになっているのかなというふうに思っております。

あとは、各イベントごとに、チラシ等を作成して施設に設置というような形になっているので、そちらのほうも、今、文化施設のほうに設置したりとかということになっているので、今の委員のお話を聞きまして、商店街ですとか、そういったところにも拡充できるような方向性を考えてまいります。

## ○石田（し）委員

ありがとうございます。ぜひやっていただきたい。

例えば、商店街もそうなのだけれども、区が持っている区有施設がたくさんあるわけではないですか。

ここは割と区のほうで、そういう様々な広報物に関しては掲示が可能なわけですよ、区の施設なのだから。そういうところを含めて、まちぐるみで、この3か月、芸術が品川区内であふれているのだねということを感じてもらうことが大事だと思うのです。

なので、それは学校もそうだし、各施設で、例えば、イベントではなくても、例えば何か1つ、入り口のところに芸術品があって、その下にこういうことをやっていますよ、ぜひ見に来てくださいねというふうな広報の仕方を増やしていくと、町中で「アートがすごいいっぱいあるんだね」というふうになってくると思うので、ぜひそういうことも含めて検討していただければ。これは要望で終わりますけれども、ぜひいろいろ工夫していただいて、せっかくな企画をやっている、それにつながらなければ意味がないので、ぜひ成功に向けて、いろいろ工夫していただければと思います。これは要望で終わります。お願いします。ありがとうございました。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○せお委員

ご説明ありがとうございます。私も、今、石田しんご委員が言っていたことはすごく大切だなと思っていて、私の視点から見ると、（2）美術展の中の障害者作品展などは、やはり会場が必ずぐるっばなわけです。そうすると、当事者しか来ないわけです。もう本当に。私も行きますけれども、いらっしゃるのは知り合い、必ず知り合いに会う。知っていただくために、この品川区民芸術祭2024の中に入れていただいているのであれば、やはり少しここ、会場とかも、すごく難しいとは思いますが、当事者の方も、もちろん来るわけだから、やはり来やすいところというのはあるとは思いますが、でも、何か工夫はできるのかなということは思っていて、ここら辺は、少し所管は違いますけれども、今年もここでやるというのは何か、どういったお話があったのかなと思って、ご存じでしたら教えてください。

#### ○大森文化観光戦略課長

会場の設定は障害者支援課にお任せしているところがあるので、こちらからは特に何も関与していないというような回答になってしまいます。

文化施設の活用等を、できる場所は取り計らっていただければなとは思いますが、何分、実際のところは有料でやっているというところもありますので、施設を区の事業でどこまで押さえてしまっているのかとか、そういったところもございますので、その辺りもよく検討しながら、多くの皆様に見ていただけるような環境に協力していきたいと思っております。

#### ○せお委員

先ほども言ったのですが、この区民芸術祭を開催しているのが文化観光戦略課だったりするわけで、やはり障害者支援課に任せることもそうなのですが、少しそこは一緒になって、今回はこういうところでやってみようとか、もちろん皆さんが来やすいところがベストですが、そういったところも一緒になって考えていただくという視点もお願いしたいなということで、よろしくお願ひします。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○吉田副委員長

私も少し今のせお委員のご質問と方向性ががぶるのかなと思うのですが、On t e n n aの使

い方が限られて、今回これができるということは非常に歓迎しているのですが、このことは、当然だと思っておりますが、聴覚障害者協会のほうには、こういうことをやりますから、ぜひ皆さんに広めてくださるとかということも広報してあるのか、それを伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### ○大森文化観光戦略課長

そちらは広報しています。

それと、明晴学園のほうにお声がけしまして、当日20名ほど、卒業生を含めていらしていただけるということで回答をいただいているところでございます。

#### ○吉田副委員長

ありがとうございます。ほかのイベントについても、やはり聴覚障害の方は、手話通訳なり配慮がされているよということがチラシにないと、それだけで、やはり自分たちは対象になっていないのだなと思ってしまうようなのです。私たちもしかられたのです。きちんとチラシに、こちらは当然配慮するつもりで、申込みがあればと思うのですけれども、書いていないと、やはりそれは自分たちは範囲外なのだということになってしまうということだったので、その点については、今後ぜひ配慮していただけたらと思います。

私もこの障害児者総合支援施設を活用されるというのは、すごくいいことだと思うのですけれども、場所的に言って、品川区の大分海側ですよ。だから、やはり荏原地域のほうからは行きにくいとか、現実そういうものがあるので、障害児者総合支援施設でも1回行われることはいいと思うのですけれども、やはり荏原地域の方たちも見に行けるような会場を今後検討していただきたいというふうに思います。

それで、先ほど、おぎの委員からグリーン電力のことがありましたけれど、前に、別件ですけれども、環境課に問い合わせたときは、環境課はメニューは提示するけれども、そのどこを活用するかについては、それぞれの所管が判断しますというご返事だったのです。

なので、多分、メニューの提示が、もしかしてグリーン電力を使えますよという提示がなかったのかもしれないですけれども、今後はそういうイベントについての環境配慮という視点が、見せるための施策が何かあるかということも両方から働きかけていただけると、品川区のそういうものも進むのかなと思うのですけれども、その点について、今後もし何か見解があれば伺いたいと思います。

#### ○大森文化観光戦略課長

まず、チラシについてですけれども、ドリームステージを見られているかもしれないですが、今回、7月の補正予算というところで、その後に進めていったというところで、チラシに「On t e n n aを使って」とかということに掲載するタイミングがとれなくて、チラシ上は載っていないので、その辺り、今後、なるべくそういった事前周知ができるような形で周知していきたいと思えます。

それから、グリーン電力のほうです。こちら、前回の環境課とのやり取り等が漏れていたもので、申し訳ございません。そちらは環境課とよく連携をとりまして、どういった事業がそこに当たるのかというところを検討しまして、積極的に活用していきたいと思えます。

#### ○吉田副委員長

ありがとうございます。やはり所管を越えるということになると、どちらが先にみたいなどころがあると思うのですけれども、今後は、どちらがすべきとかということではなくて、お互いに環境配慮の点で見せられることがないかなと、そういうメニューがないですかとか、だから、本当は環境課もこうい

うものやっしてほしいということ働きかけてほしいと思うのですけれども、どちらがやるべきということではなくて、お互いに所管を越えた、障害者支援課ともそうだし、ぜひ今後のこういうことについては、区民委員会の所管課としても働きかけていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。これは要望にとどめます。

**○高橋（伸）委員長**

ほかにございますか。

よろしいですか。

ご発言がないようですので、以上で本件を終了いたします。

---

(2) 区公式デフリンピックサポーターの決定について

**○高橋（伸）委員長**

次に、（2）区公式デフリンピックサポーターの決定についてを議題に供します。

本件につきまして、理事者よりご説明願ひます。

**○三井スポーツ推進課長**

それでは、私から、区公式デフリンピックサポーターの決定について、ご説明をさせていただきます。

7月の区民委員会でもご説明させていただきましたが、区公式デフリンピックサポーターということで補正予算のご説明をしたときに、対象者がまだ選定中ということでお話をしていたかと思ひます。そちらが決定いたしましたので、今回ご報告させていただきます。

項番2をご覧ください。

1人目が、植松隼人さんになります。

この方は、品川区出身で、元デフサッカー日本男子の代表監督になります。これまでもデフリンピックの啓発などに関する講演会等を実施されておる方になりますので、区としましては、デフリンピックの啓発に一役買ってもらいたいということで選定をしております。

2人目が、湯口英理菜さんになります。

この方は、区内企業であるJALアスリート社員の方になります。こちらは、デフではなくてパラスポーツのほうのフィールドになるのですが、そちらでずっと活躍されてきた方となりまして、これまでの経験を生かして、デフリンピックの普及啓発を通して共生社会の実現に寄与するために力を発揮してもらいたいと考えておりまして、選定をさせていただきました。

最後が、こちらは団体になりますが、明晴学園ということで、区内の私立ろう学校になります。明晴学園は、昨年度からデフリンピック啓発イベント等にもご協力いただいております。今回、デフリンピックは、ろう者のためのオリンピックということにもなりますので、明晴学園ともこれからより連携を深めてまいりたいと思ひて学校のほうに打診したところ、快く快諾いただきましたので、今回、正式に学校としてサポーターということで任命をさせていただきたいと考えております。これからは、PR活動等を学校と一緒に協力していきたいと考えているところです。

3番の任命期間ですが、あしたの8月27日からデフリンピックの終了までということで考えています。

5番に記載のとおりですが、任命式を、明日、8月27日火曜日に、明晴学園の体育館で実施することを予定しております。

**○高橋（伸）委員長**

説明が終わりました。

本件に関しまして、ご質疑等ございましたら、ご発言をお願いします。

#### ○安藤委員

湯口さんですけれども、日本で唯一の両脚大腿義足陸上競技選手ということで、すごく偉大な方といえますか、やはり共生社会の実現のためにということで大きな発信力のある方だと思っておりますけれども、それゆえに障害の種別が違うので、目立ち過ぎると言ってしまうとあれですけれども、デフのところは少し弱くなってしまうのではないかみたいな懸念がないこともないのですが、選定の経緯というか、考えについて、もう少しお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

#### ○三井スポーツ推進課長

選定は、以前、区民委員会で説明したときに、なるべく品川区ゆかりの方でデフリンピックの啓発をしていく発信力のある方ということでお話をさせていただいた中で、いろいろな方を当たっていったときに、なかなか選定が、候補者を、ある程度声をかけていった中で、こういったパラの、共生社会の実現というところもありましたので、特にデフスポーツに限らず、幅広く声をかけていったところです。今回、発信力というところも話をしております、やはりパラスポーツで活躍している、今までそういった活躍を、デフのほうの認知度はまだまだというところもありましたので、それにも活用できるのではないかとことを考えまして、今回、選定をさせていただいたところです。

なかなか、少し弱まってしまうのではないかとというご懸念もおっしゃるとおりかもしれませんが、そちらは、実際はデフスポーツの啓発ということで、ご自身のSNS等でも発信していただければと考えております。

#### ○安藤委員

分かりました。ぜひデフリンピック成功のために、今後とも様々コミュニケーションをとりながら、工夫をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○ゆきた委員

今ご説明があったとおり、区主催のイベント等への出演で、講演会・トークショー・デフスポーツ体験会とありますが、約1年3か月後に控えたデフリンピックに向けて、どのくらいの回数をそれぞれ予定しているのか。分かる範囲で教えていただければと思います。

#### ○三井スポーツ推進課長

回数についてはこれからになりますが、まず、補正予算でついたデフリンピックの啓発ブースを出展するというので前回お話をさせていただいたかなと思うのですが、あとは区民まつりのほうでも、3か所、啓発ブースを出せるということで回答をいただいております、まずはそこにも、日程が合えば、そちらにも行っていただきたいなと思っているのですが、日程が合わなければ、また、区が主催しているイベントが、デフリンピックのデフスポーツ応援事業と、デフリンピック啓発イベントが今年2回ありますので、そちらには参加いただきたいと考えております。

また来年度以降も、こういった形で関わられるかはこれから検討してまいりたいと思います。

#### ○ゆきた委員

ありがとうございます。まさにこれからということだと思われそうですが、東京都のほうでも、主催で、今年5月にデフリンピックまで残り555日ということで、啓発のトークショーが開催されたと思われ

ます。デフリンピックまで、あと1年3か月後の約450日ぐらいになるので、限られた回数になってくると思われますが、戦略によっては、回数も必要だと思いますし、まさに質も大事だと思いますので、今後さらにその辺のスケジュール感もお示しできるように、また、区民に対しても、さらに周知、このぐらいやっていきますよと、事前に分かるように周知していただければと思います。この辺について何かあれば、お聞きできればと思います。

#### ○三井スポーツ推進課長

まずは、今年度が主軸になってくるのですが、今年度は、9月と10月と11月に1回ずつということで、まず9月にパラスポーツチャレンジデーを実施しますが、そちらも今回デフリンピックの啓発という冠をつけて実施しますのと、10月はデフスポーツ応援事業といって、昨年度、デフサッカー日本代表候補を招いてトレーニングマッチを行ったのですが、またそういったことも今回できればと。11月は、「あつまれ！えばら」と同時開催しますデフリンピック啓発イベント、こちらの3つのイベントをメインに考えておまして、その3つのイベントに向けて、SNS等も活用して発信をしていきたいと思っています。なので、今年度は特にこの9月、10月、11月で集中的に周知できればと考えているところです。

また、来年度については、本番の年になりますので、これから計画も考えていきたいと考えております。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○おぎの委員

ご説明ありがとうございます。私も今回、こちらのサポーターに明晴学園が入っていることがすごくいいなと思ひまして、今のお話でも快諾していただけたということで、学生にとっても、やはり社会とか地域貢献の経験にもなりますし、すごくいい活動の思い出になるのではないかなと思います。ただ、何分、学生ですので、学業には負担がないようにご配慮いただけたらなと思っています。

イベントが成功するだけでなく、手話の普及促進みたいな部分もやはりメインになってくるのかなと思うのですが、障害者支援課とどのように連携をとっていく予定ということがもしありましたら、お聞かせいただければと思います。

#### ○三井スポーツ推進課長

障害者支援課とは、常に連携しながら、手話通訳士とかをイベントのときに派遣してもらえるように、昨年度予算取りのときから連携しておまして、パラスポーツチャレンジデーでも、ふくしまつりと同時開催になりますが、ふくしまつりのほうでも、冠をつけてデフリンピックを啓発していくということで聞いております。その中で手話体験コーナーだったり、そういうものも考えていきたいと考えております。

あと、11月3日の「あつまれ！えばら」においても、昨年も「デフスポーツ&アートフェア」ということでやったのですが、その際も障害者支援課と連携しまして、そちらでも手話体験コーナーを出してもらったり、実際に手話の理解ということで、障害者支援課と連携しながら実施してきましたので、今年度も同様に連携してまいりたいと考えております。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○石田（し）委員

1点だけ、今回、素晴らしい人をサポーターとしてお招きして素晴らしいと思うのだけれども、どうしても、例えば当事者だとか、少し狭まった条件をつけてサポーターをやると、結局そんなに広がらないのです。やはり啓発だとか、もっとこうやって知ってもらいたいと思うのであれば、一般の人はデフリンピックをよく分かっていないのだから、それを分かってもらうには、逆に分かっていない人をサポーターにして、一緒にみんなで分かっていくということが大事なわけで、どうしても当事者について、品川に関係する人というのは分かるんだよね、品川区でやっているから。だけど、デフリンピック、何か特定のものに対してアピールをすることに関しては、私は別にその人、当事者だから何か伝えてくれるわけではなくて、逆に、もっと幅広く知ってもらうには、そうではない人を起用してもいいのかなと思うし、さらに言えば、どうしても、例えば品川区で何かもっと大きいことをやるときには、すごい有名人とかに声をかけるわけだよね。簡単に言えば、例えば品川区で前にやったのは、関根勤さんとかにPR動画に出てもらったりとかして品川区を知ってもらうとか、そうやって本当に誰でも知っているような名前の人とかが、私はやはりこういうものにも、もし可能なら、もちろん予算があるし、いろいろあるのだけれども、ご協力いただけるのだったら、そういうところを拾ってきてやったほうが、本当の意味で広がっていくのではないかと思うので、そこは、これのみではなくて、ぜひ考えていただきたいです。もちろんスポーツ選手はスポーツ選手で有名な人がたくさんいるし、品川に縁のある人と言ったら出てくると思うのです。それは逆に、自分たちで探すのもそうだけれども、手挙げ式というか、「誰かいないですか」と声をかけることもありだと思し、そういったいろいろな工夫をしていただきたいなというふうに思います。

あとは、このサポーターは、せっかく品川で有名なキャラクターは、やはりシナモンがいるのだから、そこもサポーターに加えてやってもらえるようなものをつくっていったほうがよかったのではないかと思うので、そういうことも含めて、ぜひ再度、そういうことを検討して行って、本当の意味で広げていこうというムーブメントをぜひつくっていただきたいと思うのですけれども、その辺について、もし何か考えがあれば教えてください。

#### ○三井スポーツ推進課長

貴重なご意見、ありがとうございます。今回、おっしゃるとおり、予算の関係とか、なかなか来年末まで時間がないというところもあって、調整になかなか時間をとれなかったというのは本当に申し訳なかったと思うのですが、今後そういった視点も取り入れながら、こういったものを考えていければと思います。貴重なご意見、ありがとうございます。

#### ○石田（し）委員

よろしく願います。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○吉田副委員長

ご説明ありがとうございます。多分、区のほうにも当事者の方からのご要望は届いていると思うのですけれども、当事者の方たちが気にかけておられるのは、これが一過性のものになってほしくないということなのです。だから、多分、こういう形でデフリンピックまでは盛り上がるでしょう。その後なのですよね。やはり継続、手話言語条例をつくった区としては、その後のこともぜひ今から視野に入れておいていただきたいなと思います。予算のこともありますし、既に決まっていることなので仕方ないところはあると思うのですけれども、こういうサポーターの方とかを、ある程度、あまりボランティア

を求めてはいけないのでしょうか。終了後も何か引き続き手話を言語として広めていく、啓発していくというようなことを担っていただくことが無理だったら、区として別の方策もぜひ考えるべきなのですが、そうなると、障害者支援課マターになってしまうかもしれませんけれども、やはりイベント的にやるというのは効果があると思うのです。なので、連携は必要になっていくと思うのですけれども、その辺のデフリンピックの後、あくまでこれはデフリンピック終了までというような今日のご報告ですけれども、その後のことは、もう障害者支援課マターだというふうにしなくて、この区民委員会の中の問題としても扱う方法はないのでしょうか。これはお考えを聞いて、最後は要望でとどめますけれども、何かお考えがあったら、伺いたいと思います。

#### ○三井スポーツ推進課長

現時点では、障害者支援課と連携しながら、まずは来年度のデフリンピックの啓発に向けて取り組んでいるところになりますので、それ以降というのはこれからになってくるのかなと思います。やはり障害者支援課のほうで手話言語ということでやっておりますので、そことよく連携しながら考えていきたいと思います。

デフリンピックが終わってから、デフリンピックの啓発を続けていくことはなかなか難しいので、今やっているパラスポーツというところの中で、どうできるかということを考えていきたいと思います。

#### ○吉田副委員長

当然、デフリンピック終了後にデフリンピックのことをやるのは難しいと思いますけれど、おっしゃったとおり、パラスポーツというくくりの中で、聴覚障害のことも取り上げていくというのは、私は何もパラとデフを分けなくてもいいのではないかなというふうに思いますので、ぜひ前向きに検討していただけたらと思います。これは要望でとどめます。ありがとうございました。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

よろしいですか。

ご発言がないようですので、以上で本件および報告事項を終了いたします。

---

## 2 行政視察について

#### ○高橋（伸）委員長

次に、予定表2の行政視察についてを行います。

前回の委員会で、正副案としてお示しさせていただいた視察先および視察項目について先方と調整をさせていただき作成した調査項目・日程案をサイドボックスに掲載させていただきました。

なお、先方の都合上、前回の正副案から、視察先および視察項目が変更になりました。

行程といたしましては、初日、10月29日火曜日、岐阜県笠松町の笠松刑務所にて、「再犯防止に向けた取組みについて」、2日目、30日水曜日、奈良県にて、「Leapなら（奈良県女性の起業支援プロジェクト）について」、そして最終日、31日木曜日、広島県にて、「パラスポーツの普及啓発・推進について」、それぞれ視察をしてみたいと思っております。

なお、宿泊については、10月29日は奈良市、10月30日は広島市の予定で考えております。

それでは、この内容で視察を実施することとし、実際の行程など、細かい調整を進めまして、日程、視察先に変更等が出た場合は、正副委員長にご一任いただければと存じますが、よろしいでしょうか。

#### ○安藤委員

すみません、確認だけ。広島県のパラスポーツのところですが、ただいま質疑もありましたけれども、パラスポーツはいろいろある中で、デフリンピックの啓発ということの内容でよろしいのか、そこだけ確認させてください。

**○高橋（伸）委員長**

デフリンピック……。

**○安藤委員**

デフスポーツというか……。

**○高橋（伸）委員長**

デフスポーツですね。デフスポーツも当然視察として考えておりますけれども、デフスポーツもひっくるめてパラスポーツという考えで、そういうふうに記載をさせていただきました。

よろしいでしょうか。

**○安藤委員**

はい、分かりました。

**○高橋（伸）委員長**

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

**○高橋（伸）委員長**

ありがとうございます。

なお、次回の委員会で事前の勉強会を行いたいと考えておりますが、既に先方から事前に質問事項をお送りいただきたいとの依頼がございます。質問事項は、次回の勉強会を踏まえて、ご提出いただきたいと思っておりますが、各委員それぞれ視察先について少しお調べをしていただいて、どういうことを先方に聞いて確認したいかなどを事前にご検討いただければと思います。よろしく願いいたします。

以上で本件を終了いたします。

---

### 3 その他

**○高橋（伸）委員長**

最後に、予定表3のその他を議題に供します。

その他で何かございますか。

**○三井スポーツ推進課長**

それでは、私から、お配りした2つのチラシについて、まとめてご説明をさせていただきたいと思えます。

まず初めに、しながわシティランの参加者募集について、A4、ホチキスどめの資料をご覧ください。

こちらの参加者募集スケジュールにつきましては、既に6月の区民委員会でご説明したとおりとなりますが、9月1日から参加者募集を開始しまして、10月末が締切となっております。

こちらのパンフレットをお開きいただくと、左側が、シティランのおすすめポイントと、あと、大会のゲスト、大会の概要が載っております。

また、7月の行財政改革特別委員会にて、税務課より、クラウドファンディングの実施についてご報告をしておりますが、しながわシティランにおいても、参加者募集のタイミングに合わせて実施をまいります。

開いていただいて、右側のページをご覧ください。

上段の左側が参加者募集スケジュールとなっております、こちらに一般のエントリー方法が記載されていますが、右側には、10kmコース出走枠の進呈、区民も対象となっているかと思えます。こちらは、クラウドファンディングで4万円以上の寄附をされた場合に、10kmコースの出走枠を抽選なしで進呈するものとなっております、これは別途、参加料等が必要になっております。あくまでも枠のみのご提供ということで、こちらは対価性がなく、返礼品扱いではないと確認がとれておりますので、区民の方々も対象となっております。

最後に、周知方法になりますが、こちらのパンフレットやポスターなどを活用しまして、区立施設だけでなく、各町会に配布するとともに、あとは協賛企業の皆さんに周知協力の依頼をしたり、あとは鉄道会社のほうにも周知協力の依頼をしております、可能な限り駅への掲示等もお願いしているところでございます。また、大会特設サイトの掲載だったり、区公式SNSも活用してまいりまして、積極的に周知を図ってまいります。

続きまして、パラスポーツチャレンジデーの開催について、ご報告いたします。

お配りしたA4のチラシをご覧ください。

こちらの事業は、国内のアスリートによるスポーツ教室やデモンストレーション、パラスポーツの体験を通じて、障害のある人もない人も一緒に楽しんで交流するというものになっております。

実施の日時は、9月28日土曜日、午前10時から午後3時まで、場所は、しながわ中央公園で実施させていただきます。

内容は記載のとおりとなりますが、昨年と同様、ふくしまつりとの同時開催となっております、先ほども少しご説明しましたが、今年度はデフリンピックの啓発も入っております、開催1年前記念ということで、一緒にデフスポーツの啓発も進めていきたいと考えております。

実際の内容としては、パラリンピアンなどによる車いす体験会だったり、車いすバスケット体験、あとはブラインドサッカーの体験などを実施いたします。

裏面をご覧ください。

こちらは、ふくしまつりの内容だったり、パラスポーツチャレンジデーで体験できる競技も書いてありますので、後ほどご確認ください。会場マップも載っております。

左下に、「ふるさと納税制度を活用した『パラスポーツ・デフスポーツ応援』のクラウドファンディング」と書いてありますが、これもシティランと一緒にして、9月から11月にかけてクラウドファンディングを実施していきたいと思っています。主にデフリンピックの認知度向上に向けて、事業の趣旨にご賛同いただける方の寄附をお願いしているところになります。

最後に、周知方法ですが、こちらは、9月1日号の広報しながわと、区のホームページ、あとは、このチラシを保育園や小・中学校、あとは、ほかの区立施設、また、明晴学園等にも配布をしまして、周知の徹底をしてまいりたいと思います。

#### ○高橋（伸）委員長

説明が終わりました。

それでは、ただいまの2件につきまして、ご質疑等ございましたら、ご発言をお願いします。

#### ○安藤委員

シティランのほうですが、ファミリーランはペアでということですがけれども、3人家族で参加したいとか、4人家族で参加したいという場合はどうなるのかということと、あと、料金はどうなるのか教え

てください。

**○三井スポーツ推進課長**

今回は、基本的にはペアということが基本にはなりますが、今後の課題とさせていただければと思います。

**○安藤委員**

例えば、お父さんが長女と、お母さんが次女と、そのような感じでやれば、4人申し込めるという感じなのでしょうか。

**○三井スポーツ推進課長**

おっしゃるとおりでございます。

**○高橋（伸）委員長**

ほかにごございますか。

ご発言がないようですので、以上で本件を終了いたします。

そのほかに、その他で何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

**○高橋（伸）委員長**

ないようですので、以上でその他を終了いたします。

以上で、本日の予定は全て終了いたしました。

これもちまして、区民委員会を閉会いたします。

○午後1時57分閉会